

2021 年度実施概要

学校名

北海道羅臼高等学校

採択活動名

北海道の地域特性を生かした海洋教育の推進

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 「開級式」、「記念講演」	3	理科
2. 「SDGsプログラム」	3	理科
3. 「ロープワーク」	3	理科
4. 「ダイビング講習」「ダイビング実習」	3	理科
5. 「鮭に関する実習」	3	理科
6. 「鮭とば加工実習」	3	理科
7. 「観光・体験プログラム」	3	理科
8. 「プレゼン学習」	3	理科
9. 「郷土料理実習」	3	理科
10. 「羅臼町ユネスコスクール研究発表会」	3	理科
11. 「閉級式」、「記念講演」	3	理科

取り組みの概要

本校を卒業する生徒の多くは進学等のために町外に流出し、町内で就職する生徒数は少なく、Uターンで戻る生徒もごくわずかである。また、羅臼町は基幹産業である漁業の水揚量・水揚高ともに年々減少傾向にあり、人口減少も相まって地域の維持・活性化は大きな課題となっている。これらのことから、ふるさとである知床羅臼への理解を深め、ふるさとを愛し、活性化や自然保護のためにできることについて考察し、その方策を実際に提案できる人材の育成を目指し取組の充実を図った。

1. 「開級式」、「記念講演」

漁業後継者の育成を目的とした「水産教室」の開級式を実施した。その後に実施した「記念講演」では、株式会社 Furukawa. MEN-EIJI 代表取締役 古川 淳 氏による「言い訳をしない～究めたからこそ見えたもの～」の講演から、地域産業の活性化の可能性についてのヒントを得た。

2. 「SDGsプログラム」

SDGsプログラムとして、世界を相手に活躍する若手起業家、タイガーモブ株式会社(Tiger Mov, Inc.)代表取締役 菊地 恵理子 氏より、生まれ育った知床羅臼を起点に、自分はどのような価値観を持って行動し、世界に情報を発信していくのかについて講義を受けた。また、ポストコロナに向けて創造的な生き方について考える契機となった。

3. 「ロープワーク」

羅臼漁業協同組合青年部の協力のもと、ロープの結び方や船についての知識を高め、基幹産業である漁業について理解を深めた。

4. 「ダイビング講習」「ダイビング実習」

知床ダイビング企画の協力、指導のもと、ダイビングライセンスを取得するための講習を実施し、海洋への理解を深めた。

5. 「鮭に関する実習」

標津サーモン科学館と連携し、鮭の採卵や受精についての学習を実施し、基幹産業である漁業の持続可能性等についての理解を深めた。

6. 「鮭とば加工実習」

羅臼漁業協同組合の協力をいただき、鮭とばの加工を体験することにより、基幹産業である漁業と食文化についての理解を深めた。

7. 「観光・体験プログラム」

羅臼に観光客を誘致する手立てについて議論を体験し、地域の観光資源開発についての理解を深めた。

8. 「プレゼン学習」

学校設定科目「海洋生物」において、知床羅臼町観光協会より、「知床及び根室管内の魅力をどのように発信していくか」について講話を聴講した後、具体的な方策について考察した。

9. 「郷土料理実習」

羅臼漁業協同組合婦人部の協力のもと、実際に羅臼で漁獲された食材を使った料理について、調理実習を交えてレクチャーを受けた。羅臼で獲れる魚介類の特徴や素材の良さ、羅臼の漁業の展望や将来に向けた視点について直接話を聞き、ふるさと特有の食文化についての理解を深めた。

10. 「羅臼町ユネスコスクール研究発表会」

羅臼町立知床未来中学校において、羅臼町の全ての小学校、中学校、高等学校が参加し、地域についての学びの世代間交流を行った。また、海洋教育パイオニアスクールプログラム全道発表会の内容も公開した。

11. 「閉級式」

「海洋生物」の閉級式を実施し、1年間の学習成果を振り返った。その後に実施した「記念講演」では、(株)北海道ホテル取締役社長 林 克彦 氏より、『社会で使える、組織で活かす学校でも社会でもなかなか教えてくれない「ホワイトボードマネジメント」による～人の成長とプロジェクトの運営～』と題して、地域産業の活性化の可能性についての講演をいただいた。

<活動中の写真>

